

(別冊 1) 令和 6 年度 熊本市エイズ総合対策報告書

令和 6 年度
各団体での取り組みについて

令和 7 年（2025 年）4 月

熊本市保健所 感染症予防課

各団体での取り組みについて

目次

令和6年度 熊本市エイズ総合対策推進会議 委員名簿

I 各団体における取り組みの実施状況について・・・・・・・・・・ 1

II 各委員からのご意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

令和7年3月1日現在

	構成	氏名	所属
1	学識経験者	まつした しゅうぞう 松下 修三	熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 特任教授
2		いとう たかし 伊藤 隆史	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
3		あきづき ゆり 秋月 百合	熊本大学大学院教育学研究科 准教授
4	保健・ 医療関係	えがみ きみやす 江上 公康	熊本市医師会 理事
5		たなか やおき 田中 弥興	熊本市歯科医師会 副会長
6		つかはら 塚原 みゆき	熊本市薬剤師会 理事
7		ながの ともこ 永野 智子	熊本県看護協会 副会長
8		べつとう まな 別當 茉奈	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部役員
9	教育・ 青少年団体	さかき いくよ 榊 育代	熊本県公立高等学校PTA連合会 理事
10		むらかみ あや 村上 彩	熊本県私立中学高等学校保護者会 監事
11		うめだ たかひろ 梅田 隆弘	熊本市PTA協議会 常任理事
12		かたぶち みわこ 片渕 美和子	熊本市青少年健全育成連絡協議会 理事
13		まつむら ちえこ 松村 千恵子	熊本県高等学校保健会 理事
14	人権擁護 関係	たきもと けいこ 滝本 恵子	熊本人権擁護委員協議会 人権擁護委員
15		はまべ じゅんこ 濱部 純子	熊本市民生委員児童委員協議会 理事
16	企業関係	かわた あきひと 川田 晃仁	熊本商工会議所 総務部 次長
17	労働団体	いずみ ひであき 泉 秀明	連合熊本地域協議会 事務局長
18	報道関係	とびまつ さわこ 飛松 佐和子	熊本日日新聞社 地域報道本部 次長
19	ボランティア 団体関係	こうぞう	Safety Blanket 代表
20		いまさか ひろし 今坂 洋志	ともに拓く LGBTQ+の会くまもと 代表

※任期 令和6年8月1日～令和8年7月31日

I 各団体における取り組みの実施状況について

【学識経験者】

■熊本大学大学院生命科学研究部

- ・ HIV・エイズに関するミニリーフレットの作成

公認サークル「くまぴあ」と熊本市保健所とで HIV・エイズに関するミニリーフレットを共同作成しました

- ・ 熊本保健科学大学学園祭へのブース設置

「くまぴあ」と熊本市保健所感染症予防課との共催で HIV・エイズに関するクイズや実験、オブジェ作りを行いました

- ・ 世界エイズデーの宣伝

「くまぴあ」の Instagram にて世界エイズデーのお知らせと保健所にあるパネル展の宣伝を行いました

【保健・医療関係】

■熊本市歯科医師会

- ・ 委員の田中が会議出席後、他委員へ報告書を提出した。

- ・ 令和5年2月に開催したエイズに関する学術研修会を本学会誌「中岳（R5.5 発行）」に掲載し、会員に報告した。

〔熊本市歯科医師会 会議報告〕

令和5年度熊本市エイズ総合対策推進会議報告

令和5年10月24日（火）14時より開催された。

中村崇子熊本市保健所長の挨拶があり、委員紹介の後、松下修三先生（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター特任教授）による講話に移った。

・講話・

「エイズの現状と課題」ヒトレトロウイルス学共同研究センター 特任教授 松下修三先生
抗ウイルス療法の進歩により、HIV 感染症の長期にわたる発症阻止が得られるばかりでなく、新規感染を阻止することができるようになり、治療が予防になる時代。

良好に治療を継続している HIV 感染者は他者への感染させることはないと言い切れるまでになった現在において、その患者の高齢化による医療・介護の場での偏見を改善することが必要になってきている。

そして、治療の進歩により HIV 感染者の高齢化が進み、HIV 以外の疾患治療が増えてきており、熊本大学病院での対応・支援の状況と医科歯科医療連携、多職種との連携が必要になってきている現状を報告され、歯科医療連携のより一層の対応を呼びかけられた。

最後に HIV 感染への理解を促め、差別・偏見を持たないでほしい旨の要望をされた。

以上、講話の概略です。その後、松下先生の議長のもと、議事が進行された。

議 事

- 1) エイズ及び性感染症の発生動向

令和4年報告数 全国（HIV 感染者：632名、エイズ患者：252名）累計：34,421名

熊本県（HIV 感染者：7名、エイズ患者：9名）

熊本県の昭和60年から総数は HIV 感染者：126名、エイズ患者：87名になっています。

また、梅毒は、本市においては令和4年度141例（男性：105、女性：36）と昨年より増加、本年はすでにその数を超過していると報告があった。

- 2) 令和5年度～令和9年度 HIV 感染及び性感染症の予防対策（計画）

〔目的〕

HIV 及びその他の性感染症の新規感染を減少させる。

成果指標及び目標値

- ① 熊本市ホームページ（HIV 検査等のページ）の閲覧数の増加

（現状）令和4年：17917件⇒目標21500件（20%増）

- ② HIV 抗体検査数の増加

（現状）令和4年：450件⇒目標令和4年：324件

- ③ 梅毒報告例の減少；平成30年：633件⇒目標 令和9年：1500件

取り組み方針

- ① 正しい知識の普及啓発；広く市民に対し、知識と意識の向上を図り、検査体制の周知を行う。

- ② 相談検査体制の整備；市民にとって利便性の高い検査体制を構築する。

また、特にリスクの高いと考えられる層（青少年、MSM、性風俗従事者・利用者等）が利用しやすい体制とする。

以上報告です。

令和6年度熊本市エイズ総合対策推進会議報告

令和6年10月22日（火）14時より開催された。

中村崇子熊本市保健所長の挨拶があり、新年度に当たり新委員紹介の後、会長選出があり、松下修三先生（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター特任教授）が会長、副会長に伊藤隆史氏（熊本大学大学院生命科学研究部教授）が選出された。そして、松下先生による講話に移った。

・講話・

「エイズの現状と課題」ヒトレトロウイルス学共同研究センター 特任教授 松下修三先生
抗ウイルス療法の進歩により、HIV 感染症の長期にわたる発症阻止が得られるばかりでなく、新規感染を阻止することができるようになり、治療が予防になる時代になった。

また国が初めて承認した感染予防のための抗 HIV 薬も紹介された。

このように治療の進展とともに HIV・エイズ患者の高齢化による医療・介護の場での偏見を改善することが必要になってきている。そして HIV 以外の疾患治療が増えてきており、その対応・支援状況と医科歯科医療連携、多職種との連携が必要になってきている現状を報告された。

最後に HIV 感染への理解を促め、差別・偏見を持たないでほしい旨と診療所や郵送による検査の促進が早期発見につながることを話された。

以上、講話の概略です。

その後、松下先生の議長のもと、議事が進行された。

議 事

- 1) エイズ及び性感染症の発生動向

令和5年報告数 全国（HIV 感染者：669名、エイズ患者：291名）累計：35381名

熊本県（HIV 感染者：5名、エイズ患者：7名）

熊本県の昭和60年から総数は HIV 感染者：132名、エイズ患者：95名になっています。

また、梅毒は、本市においては令和5年度192例（男性：137、女性：55）と昨年より増加と報告があった、本年も10月20日現在、141件と昨年を越える予想である。

その他の性感染症においても、増加傾向である。

- 2) 令和5年度～令和9年度 HIV 感染及び性感染症の予防対策（計画）

〔目的〕

HIV 及びその他の性感染症の新規感染を減少させる。

成果指標及び目標値

- ① HIV 抗体検査数の増加

（現状）令和4年：633件⇒目標令和9年：1500件

- ② 熊本市ホームページ（HIV 検査等のページ）の閲覧数の増加

（現状）令和5年：17917件⇒目標21500件

- ③ 熊本県の新規 HIV 患者・エイズ患者報告に占めるエイズ患者の割合の減少

（現状）令和4年：56.3% ⇒ （目標）令和9年：28.5%

取り組み方針

- ① 正しい知識の普及啓発；広く市民に対し、知識と意識の向上を図り、検査体制の周知を行う。

- ② 相談検査体制の整備；市民にとって利便性の高い検査体制を構築する。

また、特にリスクの高いと考えられる層（青少年、MSM、性風俗従事者・利用者等）が利用しやすい体制とする。

以上報告です。

〔熊本市歯科医師会：中岳〕

『HIV感染症/エイズ新時代 ～人類は感染症を克服できるか？～』 令和4年度熊本市歯科医師会学術研修会



熊本県は HIV 患者の受け入れのトップランナー

2月9日(木)19時30分より県歯会館4階ホールにて、熊本大学・鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター長・臨床レトロウイルス学分野特任教授松下修三先生をお招きして、エイズに関する最新の情報と歯科医療について、講演会が開催された。



エイズに関して再考する機会にしましょう

冒頭には、日本におけるエイズ患者の歯科治療はどうなっているのか？医科との連携による適切な歯科診療環境整備の論文を紹介された。この論文によるとまだまだエイズ患者の歯科診療は進んでいないとのことだった。全国のHIV陽性者の歯科医療の対応状況によると、全てあるいはそのほとんどのHIV感染者の受け入れをしているのは、熊本県だけであることがわかった。

ている。熊本県はHIV患者の受け入れについて、トップランナーであるとのことだった。

しかし実際には診療拒否も起きており、HIV感染者への歯科治療提供のための歯科医療ネットワークの構築が大切である。熊本県でこのネットワークを構築し、熊本県が日本のモデルになっていただきたいと思う。目標は「HIV陽性者の歯科診療の一般化」である。啓発のための体験談の冊子をツールとして作成しているが、ご存じだろうか？

冊子の中には医療従事者として「HIV患者に対しての偏見と差別」を払拭することは当然であり、しかも「HIV陽性者の歯科診療にはなんら特別なことはない」のが実際であることが記載されている。

エイズに関しての情報を整理したい。1981年にHIV感染者が発見された。それまで健康だったLAの若い同性愛者5名にPCP(ニューモシスチス肺炎)「これまで知られていない免疫不全症」の多発(正体不明の感染症?)が認められた。この免疫不全症に対してART(antiretroviral therapyの略)の強力な抗ウイルス効果が報告され、ARTの導入によって1997年から薬害AIDS症例のAIDSが激減した。今はAIDSが原因でお亡くなりになる人は

ほとんどいなくなっている。

コンドームを用いない性行為を報告したHIV感染と非感染の888のカップルの調査によるとARTでウイルスが抑制されていればパートナーへの感染は起こらなかった。これらのことからHIV感染を恐れていた時代から脱却したと言えるだろう。

第35回日本エイズ学会学術集会において「HIVとともに生きる人々の紹介」があった。



講師の松下先生

HIV感染者であっても普通に結婚して子供もできるという正しい知識のupdateが大切であることを示された。欧米のガイドラインでは、ARTによってウイルス量が測定感度以下の妊婦にはHIV陰性の妊婦と同様の普通分娩を推奨している。ART治療下のHIV陽性妊婦は陰性の人と同じように出産できる時代になったと言っていた。

エイズとはどういう病気か？確認したい。

HIVは非常に弱いウイルスであり、性的接触、血液感染、母子感染の3つの経路によって起こる。

HIVはCD4細胞を標的にして免疫不全になる。初感染症状として、発熱、リンパ節腫脹、咽頭炎、皮疹、筋肉痛・関節痛、頭痛、下痢、悪心、嘔吐がある。

進行すると、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス網膜炎、口腔食道カンジダ症などが発症する。

実際の治療はどうしているのだろうか？

初回治療として推奨ARTの中にSTRがある。STRとは、Single Tablet Regimenの略で、複数の薬剤をまとめ、服薬が1日1回1錠で済むようにしたHIVの治療薬のことである。6種類の薬剤が入っている。急性・慢性の副作用が少

なく、日常臨床でたくさん使われている。より早期の治療開始によってHIV患者が高齢することに関連した重症合併症の予防が可能となり、QOLの向上につながっている。欠点を言えば長期間服用が必要であることがARTの課題として挙げられる。それでも、論文によるとARTの導入によりHIV感染者の平均寿命は一般の平均寿命に近づいたとある。

エイズは怖い病気ではなくなった。早期にARTを開始すると、平均寿命は感染していない人とは同じである。エイズ発症後の治療開始では手遅れになる症例があることは明記しておきたい。また、ARTではウイルスの排除はできないため、服薬は一生継続する必要がある。そしてさまざまな合併症を引き起こすため、これらの克服のために新たな治療の研究が必要である。

長期間のART治療後も感染細胞は残存するため、ARTは一生継続が必要なのだが、ARTを中断するとHIVがリバウンドすることが分かっている。HIVCureに向けたさまざまな治療が研究されており、遺伝子治療、Shock and Kill免疫療法で治る時代が来るかもしれない。

続いて感染予防についてもupdateしたい。



質問します

1には性感染症の予防はコンドーム、2には、Prep(暴露前予防内服、3にはU=U(Undetectable=Untransmittable)HIVに感染していても、パートナーへの感染はないことの3つのキーワードを押さえておきたい。

HIV陽性者の90%が検査を受けて感染を知る。HIV新規感染の減少は、予想を大きく上回っており、保健所などにおけるHIV抗体検査件数、相談件数は減少している。

キーとなる集団への定期検査、PREP userに

— 21 —

届くHIV検査の仕組みづくりが必要である。

熊本では2022年は15名見つかり7名発症している。例年は10名～12名発症していることを知っておきたい。

ARTは長期化する治療であるため、高齢化に伴う課題が発生している。

明らかに高齢者の割合が増えてきており、熊本大学病院において200名の方が加療中である。

熊本県のHIV診療・合併症の管理は大学に集中しているため、今後HIV診療連携病院の増加が望まれる。この連携の中に歯科医院も加わってくると良いと思う。HIVは治療の進歩により慢性的な感染症となっており、患者の生命予後も飛躍的に改善している。HIVは標準予防策で対応可能であるため、怖がりすぎる必要はない。標準予防策を徹底することで感染リスクは可能な限り0になるが、実際に起きた時には予防的に内服によって防げる。U=Uであるので標準予防策を徹底していただきたい。実際の針刺事故が起こった時には、流水での洗浄、できるだけ早い時間での予防薬服用(2時間以内)などがあるが、より具体的な対応については、歯科医師会が簡易的なマニュアルを作成する予定である。



本日はありがとうございました

正しい知識をupdateし、知ることから始まるスティグマのない社会を正しい知識のupdateとともに性の多様性を受け入れる社会が求められている。

目標である「HIV陽性者の歯科診療の一般化」は正しい知識のupdateによる普及啓発が必要であり、知ることから始まるスティグマのない社会を期待したいと熱いお言葉を頂戴した。90分の講演会であったが、参加者は新しい知見に触れ、偏見をなくすことができたことと思う。参加者の熱気の中、盛会のように閉会した。

(学術 澤穂 佳孝)



— 23 —

■熊本県看護協会

- (1) 12月の世界エイズデーには協会内に啓発のためのポスターを掲示した。
- (2) 熊本県看護協会では、熊本県全域を対象に小・中学生を対象に「性教育出前授業」を実施し、その中で、依頼校の養護教諭等と話し合い、発達段階に応じて「エイズ・STD対策」に関連した内容（自身の身体を大切にすること・性感染症予防・実態など）について講義を行っている。
- 授業は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、オンラインによる講義から対面への授業で対応できるようになった。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{小学校：8校} \\ \text{中学校：21校} \\ \text{高校：0校} \end{array} \right\}$	計 29 校 (38 回実施予定：同じ学校で学年別の実施有 延べ 2,246 人程受講 (2/11 現在))
---	--

なお、熊本県看護協会では県内全体の小中学校を対象としているが、熊本市内の依頼の多くは熊本県助産師会が担っており、今年度、看護協会を担当した熊本市内の学校は1校のみであった。

■熊本市薬剤師会

1. 学校薬剤師による中、高校生への薬物乱用教室などでの啓蒙
2. 薬局での相談時、医薬品について説明
3. 薬剤師会研修会で情報の提供を実施

■熊本県栄養士会

- ・ 8月に病院にて、入院患者向けのエイズ関連パネル展示 および STD資料の配布を行いました。
- ・ 10月19日（土）の熊本県栄養士会秋季研修会にて、研修会参加者にSTDに関するチラシとHIV・エイズに関するパンフレットを約100部ずつ配布しました。
- ・ 上記の内容については、役員会で共有しました。

【教育・青少年団体】

■熊本県公立高等学校PTA連合会

高校の運営委員会で講話の内容を共有しました。

県公立高等学校PTA連合会理事会ではタイミングが合わず、共有できませんでした。

年度初めに、県公立高等学校PTA連合会から各校へ、保護者向け研修や講演会などの案内ができるといいのではと思います。

■熊本県私立中学高等学校保護者会

団体としての取組みは特になし

■熊本市青少年健全育成連絡協議会

熊本市青少年健全育成協議会としての活動は特にありませんが、各校区青少協単位で実施されている一例として、新型コロナウイルス感染症が蔓延した時期から継続して一般的な感染症防止の啓発、中学生による標語募集などを実施しています。しかし、日常や学校生活における感染防止に対する意識は低下してきているのが現状であり、梅毒の増加が話題になり昨今であっても、性感染症に対する関心が低いのが現状です。2000年代初期にエイズ予防に関する団体での学習や予防啓発の取組が盛んに実施されていた頃に比べ、エイズという言葉の認知度が上がった一方、様々な事情で青少年の問題として取り上げられる優先順位が下がっている状態です。エイズを含む性感染症の現状に関する情報提供、相談窓口の周知を継続していかなければならないと考えます。

■熊本県高等学校保健会

- ・熊本市地区の養護教諭へ、対策推進会議の資料を提供し、各校で活用を呼びかけた。
- ・世界エイズデーにちなんでポスターの掲示

＜各高校での取組内容について＞

- ・NPO 法人せいしとらんし熊本へ依頼し講演会を実施
- ・ヘルスプロモーション推進センター代表医師 岩室紳也先生
演題「思春期のこころと性」 1・2年生対象で性教育講演会を実施しました。予算の関係もあり午前中は湧心館高校、午後本校でご講演いただきました。
- ・1年生対象 思春期保健講演会の実施 演題「人間関係ってどんなこと？ ～家族、ともだち、レンアイについて～」 講師 熊本市こども局 妊娠内密相談センター 心理相談員 南部 有美 様・主査保健師 白石 薫 様、ゆあさいどくまもと 相談責任者 波口 恵美子 様
- ・3年生を対象に性教育講演会を実施 演題「自分らしく生きる ～ライフデザインから考える性～」 講師：NPO法人せいしとらんし熊本 松元 かおり 様
- ・性教育講演会「みなさんに知ってほしい大切なこと 講師 産婦人科医 田畑 愛（フォーシーズンズ レディースクリニック院長）」の中で取り上げて、講演していただいた。
- ・性教育講演会：慈恵病院看護部長 竹部 智子 氏
- ・性教育講演会を実施。長年エイズ患者と関わってこられた岩室紳也先生に講演をしていただいた。
- ・7月に行われた性教育講演会の中で STD について触れ、夏休み前の保健便りの中で熊本県で増加している梅毒について掲載した。
- ・性教育講演会の内容の一部で STD にも触れていただいています。その他はエイズ関連のポスター掲示程度で、大きな取り組みはできていません。
- ・外部講師による性教育の講演会の中で感染症について触れた。
- ・1年生および3年生を対象に、外部講師を招いて性教育講演会を実施した。その中

で STD についても触れてもらった。

- ・いのちの大切さを考える講演会（2 年生対象）
- ・① 学年ごとに性教育講演会（2 年生：産婦人科医・3 年生：助産師）
- ② 保健委員会活動：プレコンセプションケアについて

＜各支援学校での取組について＞

- ・性教育講演会は実施しましたが、エイズ・STD について今年度は取り扱っていません。
- ・中学部・高等部を対象に性教育講演会を実施 演題：「感染症の基本と性感染症」
講師：熊本市保健所 感染症予防課 エイズ相談員 内田由香利様
- ・性教育講演会、保健委員の生徒によるポスター掲示、保健便りで啓発
- ・性教育講演会を全校生徒対象に 12 月に実施しました。講師は NPO 法人 せいしとらんし熊本理事の安田香織様（保健師・助産師）「今、高校生のあなたに伝えたいこと」をテーマにご講話いただきました。

【人権擁護関係】

■熊本人権擁護委員協議会

6 年度からエイズ総合対策推進会議委員のメンバーに人権擁護委員が参加させていた
たいております。会議に参加して、まず、情報を共有していくこと、現状把握を行
っていかうと思いました。

今年は会議の報告だけで終わってしまったので、自分自身知識をつけて、幅広い世代
に周知できるように努力します。

■熊本市民生委員児童委員協議会

エイズ・性感染症についてはデリケートな課題でもあり、専門的な知識も要すること
から、それに特化した取組は行っておりませんが、高齢者やこどもなど 地域住民の
見守り活動を行う上で、健康状態に配慮した声かけを行っています。

また、熊本市エイズ総合対策推進会議に出席した後、本会の理事会にて報告し、周知
啓発を図るように努めています。

【企業関係】

■熊本商工会議所

エイズ・STD 対策に関する情報を所内で共有し、組織内での理解を深めた。
広報ツールを活用して外部への発信を検討している。

【労働団体】

■連合熊本地域協議会

広報誌で対策推進会議の報告と熊本市の無料検査、世界エイズデーの周知を行って
いく

【報道関係】

■熊本日日新聞社

弊紙では熊本市の総合対策推進会議のニュース、関連して松下議長のインタビューを掲載しました。また毎週、感染症情報として予防を呼びかけております。

(熊本日日新聞：2024. 10. 23)

(熊本日日新聞：2025. 2. 14)

**エイズ相談数
3年連続増加**
熊本市 検査数も
熊本市エイズ総合対策推進会議が22日、中央区の市総合保健福祉センターで、市保健所が2023年



に実施したHIV（エイズウイルス）の相談数と検査数が、3年連続で増えたと報告された。コロナ禍による受診控えが解消されつつあるとみられる。

市感染症予防課によると、23年の相談数は前年比34件増の716件、検査数は19件増の652件、コロナ禍が広がった20年はそれぞれ367件、358件と落ち込んでいた。

熊本県内で23年に確認されたエイズ患者は7人、HIV感染者は5人で、前年より2人ずつ減少した。

会長の松下修三熊本大ヒトレトロウイルス学共同研究センター特任教授は、診療所や郵送による検査の促進が早期診断につながる」と話した。国が初めて承認した感染予防のための抗HIV薬も紹介した。医師や教育関係者ら15人が出席した。（飛松佐和子）

病名	患者報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	453 (423)	5.66
インフルエンザ	283 (428)	3.54
RSウイルス感染症	39 (31)	0.78
咽頭結膜熱	9 (14)	0.18
A群溶連菌咽頭炎	166 (171)	3.32
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0 (0)	0.00
感染性胃腸炎	651 (578)	13.02
水痘	21 (4)	0.42
手足口病	3 (5)	0.06
リンゴ病	7 (9)	0.14
突発性発疹	30 (25)	0.60
ヘルパンギーナ	1 (3)	0.02
おたふくかぜ	0 (1)	0.00
はやり目	12 (7)	1.33
無菌性髄膜炎	0 (0)	0.00

※()内は前週。患者報告数は定点医療機関からの報告数。定点医療機関数は新型コロナウイルス、インフルエンザが80、その他は9～50

(熊本日日新聞：2024. 12. 2)



「エイズは早期発見と早期治療が重要」と話す熊本大の松下修三特任教授
＝11月20日、熊本市中央区

発症するまで感染気付かず

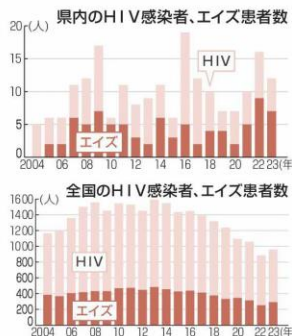
12月1日は「世界エイズデー」。エイズ（後天性免疫不全症候群）やHIV（ヒト免疫不全ウイルス）の治療は2000年ごろから急速に進み、死に直結する病ではなくなった。一方、発症するまで感染に付かない「いきなりエイズ」の増加や患者の高齢化といった新たな課題も浮き上がる。早期発見・早期治療が極めて重要」と訴える熊本大ヒトレトロウイルス学共同研究センターの松下修三特任教授(69)に、エイズ対策の現状を聞いた。

エイズはHIVに感染し、特定の疾患を発症した状態を指す。全国の新規感染者・患者数は、2010年代半ば以降は減少した。19年以降は新型コロナウイルス禍で保健所での検査件数が激減したため、実態がつかめない現状もある。

近年の特徴は、エイズを

「いきなりエイズ」増加

熊本大・松下修三特任教授 早期発見、治療が重要



遅れているといえる。

24年の熊本県内のいきなりエイズ率は、2割程度にとどまっている。これは医療機関で匿名検査できる県の制度が、23年に始まったためとみられている。

保健所での無料検査もあるが敷居が高いようだ。検査の拡大に加え、感染予防に期待されるのが、今年8月に国内で初承認されたPrEP（暴露前予防用服薬）。1日1錠服用することで、感染を90%以上避ける。費用は1カ月で数万円と高額。海外では薬を無料で配布する国もある。予防できれば結果的に医療費が抑えられる。薬価を抑える施策が必要だ。

最近では海外の研究で証明された「U＝U」という考え方が提唱されている。英語の頭文字を取った言葉で、ウイルスを「検出できない」「感染しない」を意味する。治療と併行して、HIVの量が低くれば、性行為で相手を感染させることはなくなる。

治療の進歩により、感染者の高齢化に伴う生活習慣病などの病気を介護といった新たな課題もある。特に介護施設ではHIVへの理解が進んでおらず、県内でも入所を断られることがある。理由は「職員の理解が得られない」といった感情のなもので、HIVは標準的な感染予防策で対応でき、一般の施設や病院で受け入れられることを知ってほしい。（談）

Ⅱ 各委員からのご意見

【保健・医療関係】

■熊本県看護協会

(1) エイズ・STD対策全般について

“自身の身体を守る(大切にする)”、“相手(他者)の身体を守る(大切にする)”という観点で、中学・高校のみならず、低学年の時から、発達段階に応じて、自身の健康管理や相手を尊重した対応を行うことがエイズ・STD対策につながることを伝え、意識し実践できるような教育を行うことが必要だと考えます。

(2) エイズ対策推進会議について

毎回、最新情報をご講話いただき知識をブラッシュアップするよい機会となっております。熊本県エイズ対策会議において、県全体としての取組の報告があつていすので本会議では市独自の取組について検討し、深めていければよいのではないかと思います。

【教育・青少年団体】

■熊本県公立高等学校PTA連合会

(1) エイズ・STD対策全般について

エイズやSTD対策については、家庭の中でも話し合ったり、正しい知識を学ぶ機会を増やす必要があると思います。

■熊本県私立中学高等学校保護者会

(2) エイズ対策推進会議について

10月の会議に出席出来なかったため各保護者会長への配布物等がないか確認したところ特にないとのことでした。当団体で出来ることは感染症の現状や対策等についての周知であると思いますので、フライヤーやリーフレットなどがあると大変ありがたいです。

■熊本市青少年健全育成連絡協議会

(1) エイズ・STD対策全般について

性感染症が「自分には関係ない一部の人達のものである」との意識が依然として強いのが現状です。性的な接触を持つ可能性のあるすべての人が知っておくべき基礎知識として、その予防と早期治療、他への感染防止のためにできることの周知と、リスクの高い人へのより踏み込んだ実践(合同会議で研修した内容など)とを並行して継続して欲しいと考えます。

(2) エイズ対策推進会議について

「エイズ総合対策推進会議」の名称を変更させることは困難でしょうか？

行政の取組として継続されていることであるとしても、そのあり方については見直すことも必要ではないでしょうか。性感染症対策に必要な関係の方が含まれている会議ですので、会議内では様々な視点からのご意見を伺うことができます。しかし、それらが報告書作成以外に市としての感染症対策に反映されているか疑問に思うところです。会議において得られた情報をそれぞれの団体に持ち帰って、自分のところで何かしなさい、という時期は終わっており、新たな展開が必要であると考えます。

(3) その他

性感染症を含め性に関することを中学生や高校生、大学生などと意見交換できる場は作れないでしょうか？

■熊本県高等学校保健会

- ・講演会で、熊本市の最新の情報を伝えていただき、生徒たちが性感染症を身近にある問題として捉えることができたと思います。今後も新しい情報を教えていただくと助かります。
- ・検査を気軽に受けられるよう、郵送検査や一般病院での検査をしてほしい。
- ・「20歳の集い」などのイベントの際に、会場で啓発活動や郵送検査の案内・紹介のチラシ配布などをしてもらいたい。
- ・TikTok やインスタグラムなどの SNS を活用した啓発活動に力を入れてもらいたい。
- ・学校で外部講師を招いて性教育講演会を行う際は、申請すれば市から助成金ができるようにしてもらいたい（講師によっては講演料が高くて予算が取れず断念することもあるため）
- ・無料の講演会を学校で実施して欲しい
- ・過去に熊本市（教育委員会）の取組「いのちの大切さを考える講演会」で産婦人科医よりSTDの話をしていただいたことがあった。発達障がい・知的障がいの生徒がわかりやすい資料があればと思う。
- ・出前授業があれば、校内での講演会や保健委員の研修を設定しやすいです。

【人権擁護関係】

■熊本人権擁護委員協議会

- (1) エイズ・STD対策全般について
ポスターやチラシ等、身近に目のつきやすいところに配布する
- (2) エイズ対策推進会議について
はじめての参加でしたが、とても勉強になりました

■熊本市民生委員児童委員協議会

- (1) エイズ・STD対策全般について
エイズ総合対策推進会議で会長である松下修三 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター特任教授の講話にてエイズ・STD対策として「早期発見の重要性、治療

が大事」といった内容を拝聴し、会議内容の資料を添付し、市民児協理事会にて報告し、組織内での理解を深め、周知を図りました。

(2) エイズ対策推進会議について

エイズ・STD 対策は難しい課題であるので、研修をしていただいたり、他の情報など伺いたい。

(3) その他

- ・市民児協、各校区の定例会等でも理解を広められるように周知を図りました。
- ・エイズ性感染症が低年齢化しているので、市立中学校でも評議員会などで理解を深めて頂くよう周知しました。

【企業関係】

■熊本商工会議所

(1) エイズ・STD対策全般について

感染予防、検査の早期受診等に関する啓発に取り組んでいきたい。

【労働団体】

■連合熊本地域協議会

(1) エイズ・STD対策全般について

正しい知識をいかに身につけていくかが大切だと思う

(2) エイズ対策推進会議について

引き続き現状の報告をしていただき、情報共有して、周知、啓発を行っていく

(3) その他

周知、啓発の場を作っていきたい